

DevOps Culture and Practice 技術演習環境ガイド

TL500



資料の場所

https://github.com/fminamot/tl500-info/

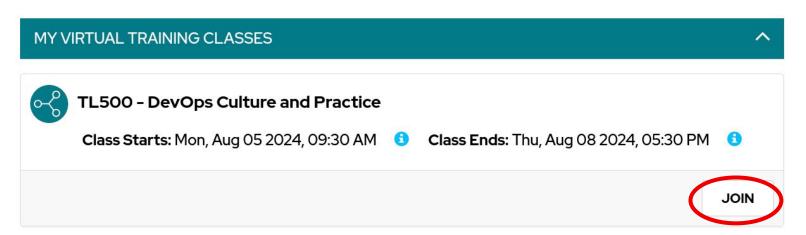


演習環境へのアクセス (全員で実施)



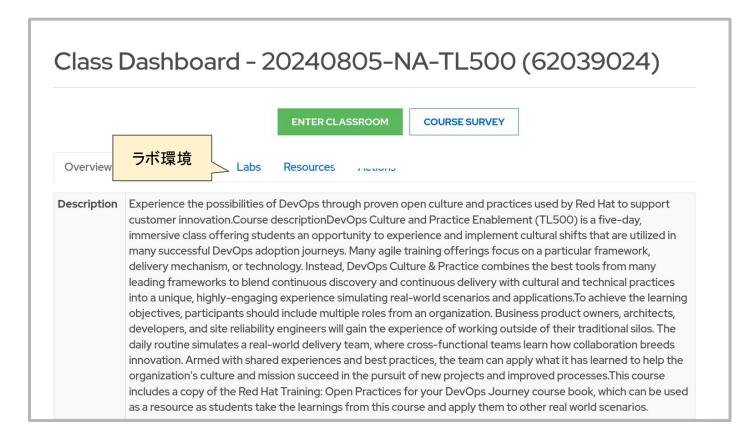
TL500演習環境への参加方法

- 1. ブラウザからROLポータル (rol.redhat.com)にログインします
- 2. MY VIRTUAL TRAINING CLASSの**TL500**を探します。
- 3. DO180のクラスにある JOIN のボタンを押します
- 4. TL500クラスダッシュボードの画面が表示されます。





TL500クラスダッシュボード





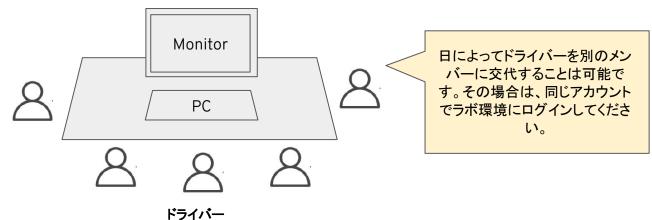
チームでの演習の進め方



チームでの技術演習の進め方

技術演習はチーム単位で実施します。

- 1. 各チームで演習を実施する人(**ドライバー**)を一名選んでください。
- 2. 各チームのテーブルにはノート PCが一台と外部モニターが用意されています。
- 3. ドライバーは、技術演習手順書に従って実際に演習を実施します。チームの他のメンバーの方は、 外部モニターを見ながら、ドライバーをサポートします。



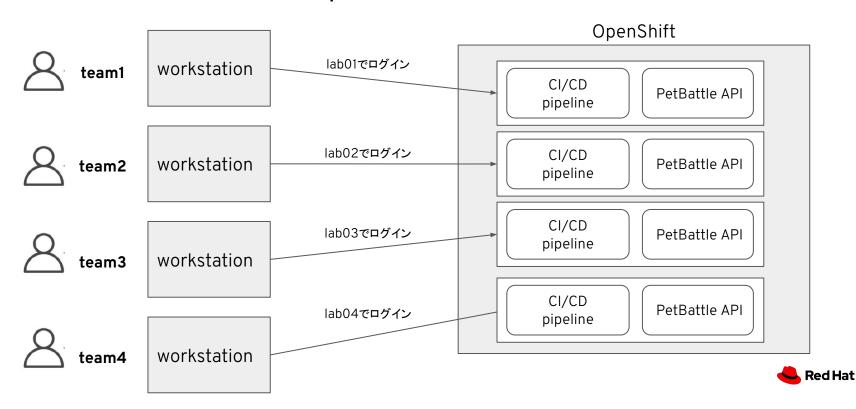


システム構成



技術演習環境のマシン構成

各チームにはWorkstationという作業マシンが用意され、このマシンからOpenShift Webコンソールにログインします。演習はOpenShift上で実施します。



OpenShiftのアカウント

WorkstationからOpenShiftにアクセスするためのアカウントが用意されています。 各チームには、以下のteam1~team4のいずれかのアカウントが割り当てられます。

チーム名	team1
ユーザー名	lab01
パスワード	lab01

チーム名	team2
ユーザー名	lab02
パスワード	lab02

チーム名	team3
ユーザー名	lab03
パスワード	lab03

チーム名	team4
ユーザー名	lab04
パスワード	lab04

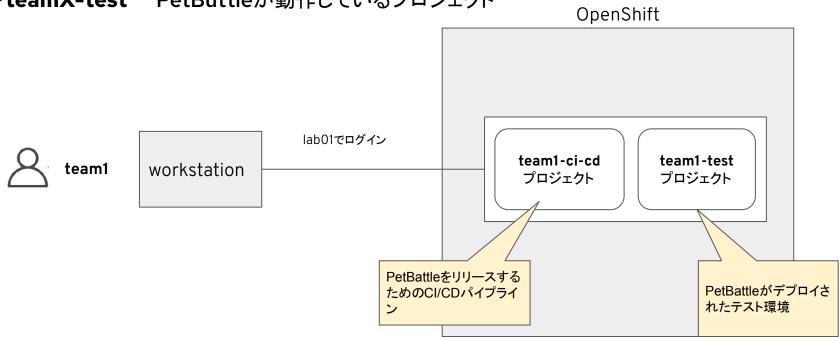


OpenShiftプロジェクト = 論理空間

各チームには、

・teamX-ci-cd CI/CDパイプラインが動作しているプロジェクト

・teamX-test PetButtleが動作しているプロジェクト





仮想マシンの操作 (ドライバーのみ実施)



仮想マシンの作成

ドライバーは、ダッシュボードの Labsを開き、[Create] ボタンを押します。これにより技術演習を実施するための仮想マシンが生成されます。





仮想マシンの制御

仮想マシンが起動して状態が Activeになったら演習を開始できます。トレーニングを実施している 4日感の間、仮想マシンを起動状態のままにします。 [STOP] ボタンは押さないでください。

注意: [DELETE] ボタンを押すと仮想マシンが削除されてしまいますので、ファシリテーターから指示がない限りは押さないでください。

▶ Lab Controls			WATCH TUTORIAL
DELETE	STOP		
bastion	Active	ACTION -	OPEN CONSOLE
classroom	Active	ACTION -	OPEN CONSOLE
workstation	Active	ACTION -	OPEN CONSOLE
Auto-stop in 14 days. Auto-destroy in 14 day	s.		



workstationのコンソール

workstationの [OPEN CONSOLE] ボタンを押すとRed Hat Enterprise Linuxの画面が表示されます。

注意:演習では workstation以外のコンソールを開くことはありません。





workstationへのログイン (ドライバーのみ実施)



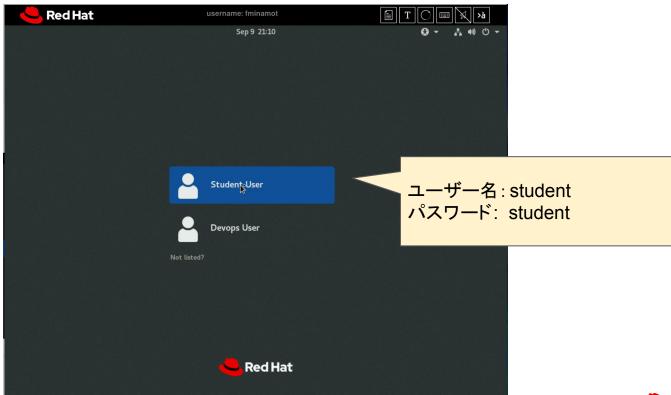
Red Hat Enterprise Linuxへのログイン(1)

コンソールを開いた直後はスクリーンセーバーが動いています。



Red Hat Enterprise Linuxへのログイン(2)

Student Userを選択してログインします。





Red Hat Enterprise Linuxでターミナルを開く(1)

画面左上の Activities をクリックして Terminal アイコンを選択します。





Red Hat Enterprise Linuxでターミナルを開く(2)

Terminal を開いたら、ViewメニューやTerminalメニューでWindowやFontのサイズを調整できます。



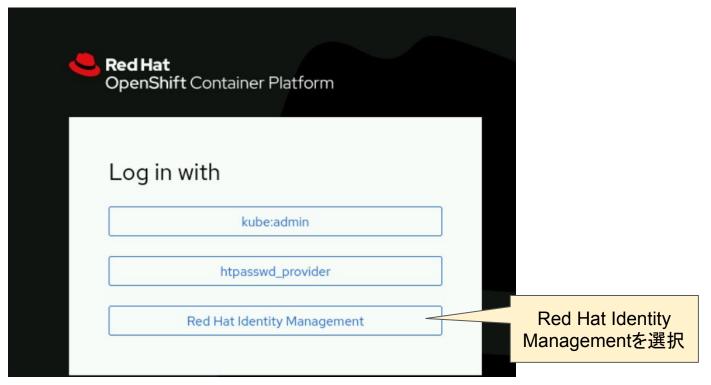


OpenShift Webコンソール (ドライバーのみ実施)



OpenShift Webコンソールへのログイン(1)

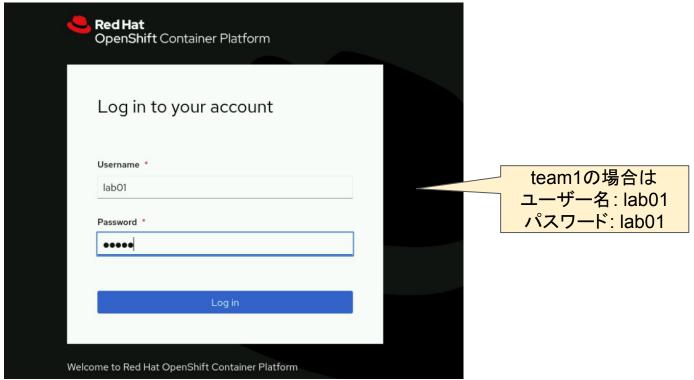
Webブラウザーで<u>https://console-openshift-console.apps.ocp4.example.com</u>を開きます。





OpenShift Webコンソールへのログイン(2)

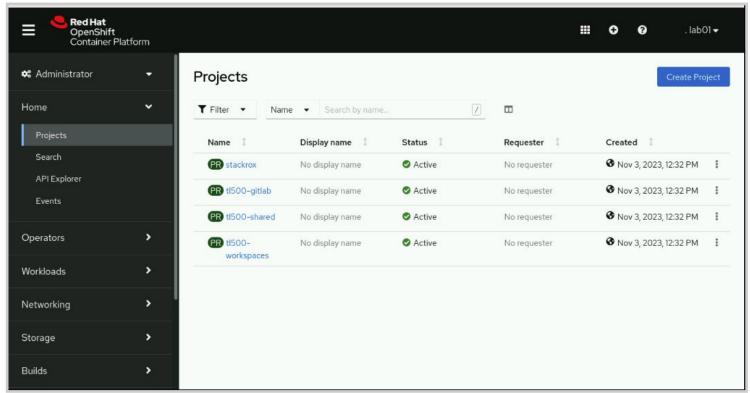
ユーザー名、パスワードはファシリテーターから割り当てられたものを使用します。





OpenShift Webコンソールの操作

左側にナビゲーションメニュー、右側にメニュー選択に応じたリストが表示されます。



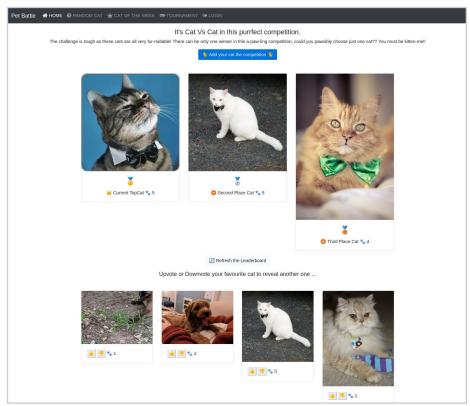


PetBattle アプリケーション



PetBattleアプリケーション

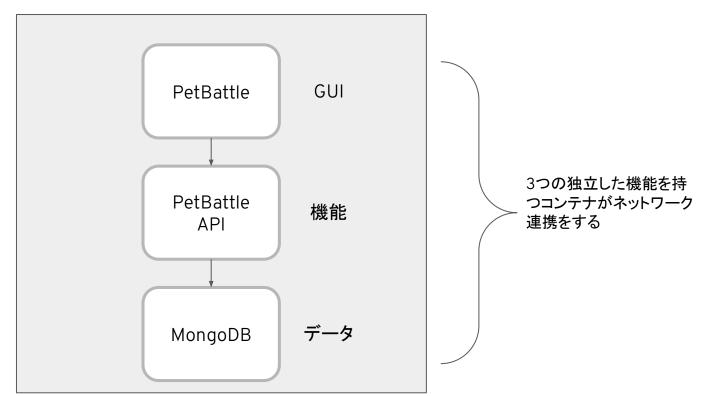
DevOpsプラクティスの題材としてPetBattleアプリケーションを使います。





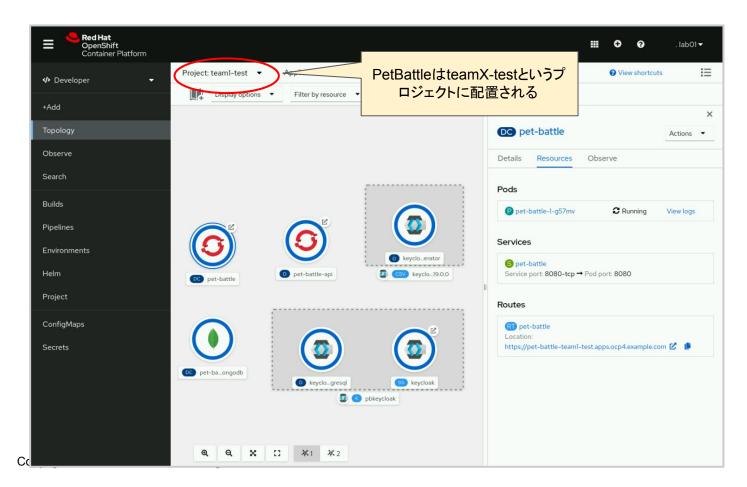
PetBattleのアーキテクチャ

ホスト





PetBattleは teamX-test プロジェクトにデプロイされる



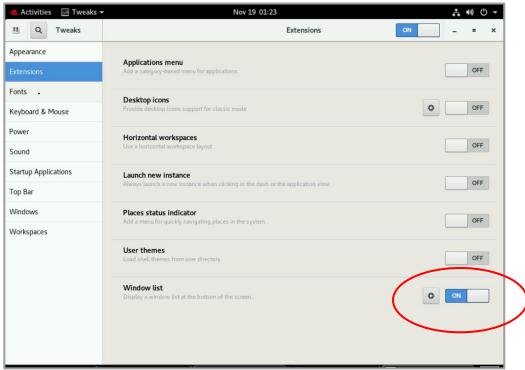


演習環境のカスタマイズ



Gnome Tweaks

gnome-tweaksをインストールすることで、ウィンドウのリストを表示できるようになります。



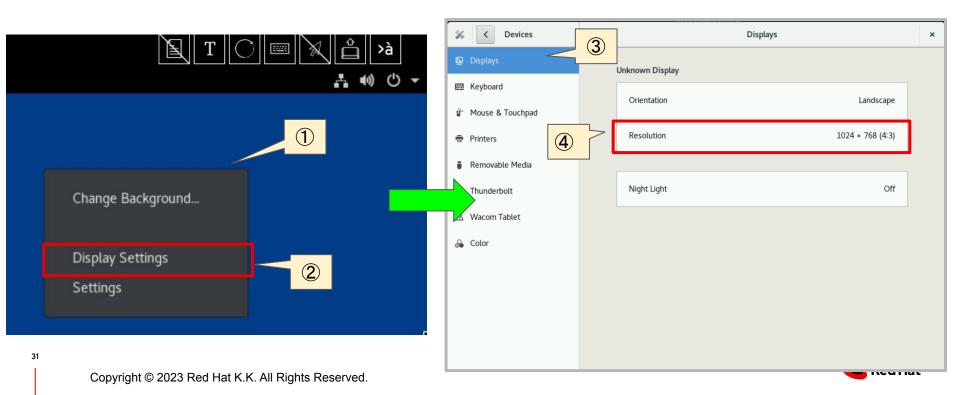
手順:

- 1.sudo dnf install gnome-tweaks -y
- 2.アプリからTweaksを探す
- 3.Extensions > Window listをONに設定



デスクトップのディスプレイ解像度調整(1)

背景画面上で右ボタンメニューを開き (①)、Display Settingsを選択します(②)。 設定ダイアログの Devices > Displayが選択されているので(③)、画面解像度を変更できます(④)。



デスクトップのディスプレイ解像度調整(2)

解像度変更後に問題なく画面が見えているようであれば、Keep Changes を選択します。 何もしない場合は自動的に元の解像度に戻ります。

